

令和7年度 保育園の自己評価

テーマ「安心できる環境が子どもの育つ力を引き出す（見守り・信じ・安心を土台に育ちを支える）」

当園が目指す保育とは・・・

- ・「安心」が子どもの育つ力の土台になり、思いきり遊び挑戦し成長することができます。子ども達一人ひとりの気持ちを受けとめ、温かく見守りながら「たのしい！」「はっけん！」「やってみたい！」という気持ちを大切に！！
- ・子どもの気づき、考え、学ぶ姿に応答的に関わり、子どもの豊かな心に共鳴する大人の存在を大切に！！

○「その保育を実現するための課題」

- ・子ども理解を深めるよう自己研鑽していく（大人自身もワクワク楽しめるように）
- ・Webなどを活用し振り返りや情報共有の時間を確保する
- ・子どもの育ちを保護者と共有する



※1
テーマ「みんなで話そう！」



○課題改善に向けての取り組み

- ・こども会議の継続（ようちえん会議）5歳児
- ・小学校との接続（移行支援）
- ・法人勉強会（前半の内容は職員主体で運営※1）（※2）



※2



「今、改めてアタッチメントの大切さを考える」

「戸外でひろく保育の視点」

○令和8年度の取り組みへのバトン

昨年度、令和4年度から続けているポートフォリオについてアンケートを実施でき良い反応に保育士のモチベーションも上がり励みにもなった。にじいろファイルの中のリングがプラスチック製のため在園期間が長い園児は外れやすいこともあり金属製（スチール）に変更。保護者の提案にあった背表紙に名前を入れることも今年度に改善。さらに今後可能なら、卒園した子ども達や保護者の反応も追って調査し参考にできたらと思う。

012歳児の親子ピクニックと345歳児のファミリースポーツデーは内容が重ならないようにし、兄弟児の保護者のことも考え職員が全体のバランスと目の前の子どもたちの姿を捉えながら計画したことは良かった。次年度も引き継ぎたい。

5歳児の活動として「こども会議（ようちえん会議）」を持続。今年の5歳児さんにあうように会議や活動も取り入れた。サッカー交流試合に参加し、かりゆし諸見保育園の園児との交流を深めることが出来、さらに両園の交流を増やしていきたい。義務的にならずその年度年度で子どもたちの姿に添うように続けていく事は大事だと感じた。

昨年の津波警報に続き今年の7月にカムチャッカ半島東方沖で起きた地震による津波注意報を通して、伝達方法など避難訓練をより実践的なものとして誰もが指揮をとれるよう見直していきたい。

前半の法人勉強会では両園の代表の職員主体で研修内容を計画し行った。後半は講義とは別に戸外（首里城）に出て、保育の視点をもって沖縄の文化に触れる。その経験を子どもたちにアウトプット出来るよう意識したことで、実際にあそびの中で小麦粉を使って園庭で「のまんじゅう」の見立てあそびが始まった。その延長から実際に食べられる「のまんじゅう」作りに発展し食育へとつながったことはとても良かった。また、園内勉強会では警察の方を招き、不審者対応の実践訓練と振り返りまで行うことが出来、外部から専門的な知識を得ることの必要性も改めて感じた。

今年度から職員が心身の健康維持とともにリフレッシュできる環境を整える為、2日間の「リフレッシュ休暇」を導入し職員間で調整しながら計画的な取得ができた。また、シフト手当（早番～遅番の時差出勤）や事務手当（クラス担任）を設けることで、業務内容に応じた処遇改善を図り職員の意欲向上につながった。課題としては、全員平等に休憩時間を確保できるよう模索中である。

令和8年度も保育所保育指針を基盤にしながら、子どもの気持ちに寄り添い、「ここが安心できる場所」と感じられる毎日を大切に子どもたちがもつ育つ力を信じ、一人ひとりの笑顔と健やかな成長を、保護者や地域とともに温かく見守り支えていきたいと思う。